

# 元気

## まち物語

2013.10



### 下関市商工会青年部豊北町支部

つりには特に時間と労力を費やしています」と、支部長の<sup>かみやまきひろこ</sup>上谷全彦さんは話してくれました。

#### 豊北夏まつりの主幹団体へ

豊北町支部がこの祭りの主幹団体として企画・運営を行うようになったのは、平成16年からでした。下関市との合併を翌年に控えたこの年、町役場の人員だけで祭りの運営を続けることが難しくなってきた豊北町役場から、商工会青年部に「豊北夏まつりの主幹団体になってもえませんか」という申し出がありました。「子供たちや孫の世代まで地元の祭りを残したい」という思いから、この祭りの主幹団体を引き受けました。

豊北夏まつりを運営していくうえで、豊北町支部は一つのテーマを掲げました。それは「田舎にしかない祭り」。地元の山で取れる竹と廃ロウソクを利用して竹灯籠を作成。地元の小学校には、部員がペットボトル灯籠の作成指導に訪れ、今では毎年、竹灯籠とともに地元の小・中学生が作ったペットボトル灯籠を会場に並べ、これらの灯籠を利用した遊歩道は

祭りの見どころの一つになっています。他にも、来場者に座ってもらうながら花火を見てもらうと、畳を敷き詰めた畳席が砂浜に現れます。今年はいにくの天気です。祭りに灯籠と畳席が現れることには、豊北町の海辺にどこか懐かしい空間がよみがえります。

#### 活動を支えるもの

「祭りの準備は大変なこともありますが、商工会青年部が頑張ってくれたので良い祭りになったと言ってもらえると、来年もまた頑張ろうという気持ち湧いてくる」と上谷さん。

豊北町の美しい自然と祭りを後世に残したいという思いを胸に、下関市商工会青年部豊北町支部の活動は続いていきます。

豊北町の北部にある阿川ほうせんぐり海浜公園では、9月1日、今年も夏の終わりを告げる「豊北夏まつり」が行われ、間近で上がる約3000発の花火に来場者は酔いしました。

#### 地域振興に貢献

この祭りを企画・運営の両面で支えているのが、下関市商工会青年部豊北町支部の皆さんです。

下関市商工会青年部豊北町支部は、商工会活動を通して地域振興に貢献したいという志のある、40歳以下の事業所代表者で構成され、現在約20人が所属しています。

豊北町支部は豊北夏まつりの他に、知的障害者施設の運動会や「ツール・ド・しものせき」の運営サポート、馬関まつりでの豊北町特産品のPR活動も行っています。「これらの活動の中でも、豊北夏まつりには特に時間と労力を費やしています」と、支部長の

- ①毎年大好評の花火を楽しみに来たという、地元の小学生
  - ②遊歩道の中に設置されたペットボトル灯籠が作り出す幻想的な空間
  - ③豊北の夜空を彩る大輪の花火は迫力満点!
  - ④下関市商工会青年部豊北町支部の皆さん(最前列中央が上谷全彦支部長)
- ※②③は昨年撮影

